

保全すべき地形・地質

県内における貴重な地形・地質の存する地域としては「第1回自然環境保全基礎調査（環境庁、1973）すぐれた自然調査—地形・地質・自然現象」によれば、国レベルで保護すべき貴重な地域（Aランク）7か所、地方レベルで保護すべき貴重な地域（Bランク）37か所（B～Aランクを含む）、県レベルで保護すべき貴重な地域（Cランク）49か所が掲げられている。（「温鉱泉」及び「噴泉」と分類されたものはのぞく。）

| No. | 名称※ | 所在地※ | 分類 | 概要 | 評価 | 指定状況※ |
|-----|------------|-----------------|--------|--|----|---------|
| 1 | 加賀旧潜戸 | 松江市島根町 | 海食洞 | 加賀旧潜戸と呼ばれ、火山角礫岩など主として安山岩質火山砕屑岩に刻まれた海食洞で附近には、大小の大きさ、レベルに各種のものがある。 | B | 国立・特保名天 |
| 2 | 加賀新潜戸 | 松江市島根町 | 海食洞 | 加賀新潜戸とも呼ばれ、1にほぼ同じ。 | B | 国立・特保名天 |
| 3 | | 松江市島根町加賀（旧潜戸付近） | 甕穴 | 直径2～3mのものが数個あり、現在成長しつつものもある。教材の立場から重要。なお、波食台地も広く発達し、全体として海食地形の各種が見られる。 | B | 国立・特保 |
| 4 | | 松江市美保関町惣津（西部海岸） | 海食地形 | 頁岩が広く分布し、それを貫く粗粒玄武岩との選択的侵食地形がよく表現され教材として適する。 | C | 国立・特 |
| 5 | | 松江市鹿島町御津（御津北端） | 岩脈 | 頁岩を貫く岩脈として、島根半島の典型的な粗粒玄武岩の好露頭、教材として優れる。 | C | 国立・特 |
| 6 | | 松江市島根町大芦（大芦西北端） | 岩脈 | 5に同じ | C | 国立・特 |
| 7 | | 松江市島根町瀬崎（北部海岸） | 鉱物露頭 | 出雲五色めのうと呼ばれる赤黄緑色模様を示すめのう脈の露頭がある。安山岩質火砕岩を貫く20～30cmの幅をもつ脈である。附近一帯の礫質海岸の礫の中にもその種のめのうの円礫がしばしば混入する。 | C | 国立・特 |
| 8 | 飯梨川河口部 | 安来市宮須 | 三角州 | 飯梨川下流に発達する三角州で現在の河流によって形成されつつあるもの。県下では最も大きいものである。 | C | |
| 9 | 大根島の第2熔岩隧道 | 松江市八束町 | 溶岩トンネル | 玄武岩溶岩（新第三紀）中に形成されたもの。昭和8年に発見された。内壁に見事な溶岩鍾乳石および玉滴石が生成されている。 | A | 天 |

| | | | | | | |
|----|----------|---------------|--------|---|-----|--------|
| 10 | 大根島の熔岩隧道 | 松江市八束町遅江 | 溶岩トンネル | 旧新二つの洞くつからなるが、もともと一続きのものと思われる旧洞くつは入口より南西に向って100mの延長をもつ環状の洞くつである。洞くつ内には地下水が貯留する。新洞くつは延長約70mで海底に延長するらしいが地下水湧出のために詳細は不明である。ともに新第三紀玄武岩中に形成されたもの。 | A | 特天 |
| 11 | 鬼の舌震 | 奥出雲町 | 溪流 | 鬼の舌震（おにのしたぶるい）と呼称され、河川の遷急点に位置している。河谷は粗粒黒雲母花崗岩を刻み、両岸にはきり立つ花崗岸の節理面があつて、節理面に沿う崩壊礫は直径10m以上にも及ぶものがある。その転石には大小の罅穴が発達するなど河川による花崗岩の浸食機構の研究に優れた場所であると同時に周囲の植生との美しい調和は、自然に親しむ好適の場所でもある。 | B | 県立・特名天 |
| 12 | 船通山 | 奥出雲町 | 準平原遺物 | 船通山と呼ばれ、標高1,142mで頂上附近一帯は緩斜平坦面となっている。中国地方高位浸食平坦面に対比される。 | B | 国立・特 |
| 13 | 吾妻山 | 奥出雲町 | 準平原遺物 | 吾妻山東側に発達する平坦面で、その平坦面上に流出した玄武岩溶岩は、吾妻山の山峰を構成する。中国地方高位浸食平坦面に対応する。 | B | 国立・特 |
| 14 | 浮浪の滝 | 出雲市別所町（鱒淵寺境内） | 滝 | 弁慶の伝説にとむ滝で造瀑層としての流紋岩溶岩上から落下する。滝つぼがよく発達する。 | C | 県立・特 |
| 15 | 竜頭が滝 | 雲南市掛合町 | 滝 | 安山岩質火山砕屑岩に形成された滝で、島根県下では第1級のものである。 | C | 県立・特 |
| 16 | 八重滝 | 雲南市掛合町 | 溪流 | 河川の遷急点に相当する位置にあり階級状に小規模な数個の滝が形成される。八重滝と呼ばれている。 | C | 県立・特 |
| 17 | 浜山砂丘 | 出雲市 | 砂丘 | 最高点41mの砂丘が南北に延長する。東に急で西に緩斜する。西から東に向って移動してきたもので植林によってその移動を防止してきた。石英にとみ鑄物用珪砂として採掘されている。形態上からいってもその規模からみても山陰第1級の砂丘である。浜山砂丘と呼ば | B～A | |

| | | | | | | |
|----|-----------|-----------------|--------|---|-----|------------------|
| | | | | れる。 | | |
| 18 | 浜山砂丘 | 出雲市大社町湊原 | 砂丘 | 海岸に沿って南北にのびる。西側に緩、東側に急斜する。最高18m。 | C | |
| 19 | 日御碕 | 出雲市大社町 | 節理・海食崖 | 島根半島西端に位置し、流紋岩の溶岩からなる。溶岩には、六角柱状節理が著しく発達する。附近は植生がほとんどなく、節理の露出が広く学術・教材として自然観察のすぐれた地域を形成する。海食崖は、節理面に沿ってほぼ垂直にきりたち、極めて幾何学的である。 | B~A | 国立・特 (一部将保) |
| 20 | 猪目洞窟 | 出雲市猪目町 | 海食洞 | 海面すれすれの位置にある海食洞で、地層境界に沿う選択的浸食によって形成された。伝説と人類遺跡がある。 | C | |
| 21 | | 出雲市大社町(日脚碕東部海岸) | 海成段丘 | 標高40~60m附近に発達する平坦面によく識別される海成段丘。中国地方低位平坦面に対比される。よく保存され、自然が残されている点で教材として価値がある。 | B | 国立・特 |
| 22 | 須佐の風穴 | 出雲市佐田町宮内 | 風穴 | 安山岩の崖錐堆積物中に発達する風穴で約10℃程度の冷気流が流出する。 | C | |
| 23 | 蛇池 | 出雲市湖陵町 | 堰止湖 | 蛇池と呼ばれ、第三紀布志名層中に形成されていた谷が砂丘性風成層によりてせきとめられてつくられた。 | C | |
| 24 | 立久恵峡 | 出雲市 | 断崖 | 立久恵峡と呼ばれ、第三紀安山岩質火山碎屑岩に形成されたグリーン侵食的地形が特に美しい。 | C | 県立・特 名天 |
| 25 | | 大田市波根西(大原川右岸) | 海食洞 | 陸地側に面する斜面に残された縄文海進期の海食洞で高さ約6m附近にある。砂岩中に形成された直径約2mのものが数個残っている。縄文時代の海面変動を説明する教材として貴重なものである。 | C | |
| 26 | 三瓶山室内 | 大田市 | カルデラ | 三瓶火山群の中心にあつて爆裂カルデラと考えられるものである。カルデラ内部には室の内池と称される池がある。 | B | 国立・特保(自然林が天) |
| 27 | 三瓶山及び周辺地域 | 大田市 | カルデラ | 三瓶火山群をとりまく花崗岩山地の陥没カルデラでほぼ円形のカルデラ壁をもつ。陥没カルデラの落差は明確ではないが、少なくとも200m以上はある。 | B | 国立・特 (周辺部を除く) |

| | | | | | | |
|----|--------|-----|------|---|-----|------------------|
| | | | | カルデラのほぼ中心は幾つかのコンをもつ三瓶火山が噴出した。 | | |
| 28 | 男三瓶 | 大田市 | 鐘状火山 | 三瓶火山群のうち、最も規模の大きいもので標高1,126mの鐘状火山、親三瓶と呼ばれる。角閃石黒雲母石英安山岩でウルム氷期時代の噴火によって形成された。 | B~A | 国立・特保 (自然林が天) |
| 29 | 女三瓶 | 大田市 | 鐘状火山 | 女三瓶と呼ばれ、標高約957mの鐘状火山で三瓶火山群の一つ。角閃石黒雲母安山岩。親三瓶と同時代の噴火によって形成。 | B | 国立・特 |
| 30 | 子三瓶 | 大田市 | 鐘状火山 | 子三瓶と呼ばれ三瓶火山群の一つで角閃石黒雲母石英安山岩からなる鐘状火山。標高961m。 | B | 国立・特 |
| 31 | 孫三瓶 | 大田市 | 鐘状火山 | 孫三瓶と呼ばれる標高902mの鐘状火山で角閃石黒雲母石英安山岩からなる。三瓶火山群の一つ。 | B | 国立・特 |
| 32 | 日影山 | 大田市 | 鐘状火山 | 日影山を中小とする少なくとも二つ以上の鐘状火山の複合体で、三瓶火山の旧期の活動によって形成されたものである。かなり開析が進んでいる。 | C | 国立・特 |
| 33 | 浮布池 | 大田市 | 堰止湖 | 浮布池と呼ばれ、花崗岩からなる谷川を三瓶火砕流がせきとめた事によって形成された湖で、三瓶火山を背景とする眺望はすぐれている。 | B | 国立・特 |
| 34 | 室の内鳥地獄 | 大田市 | 噴気 | 鳥地獄とも呼ばれる炭酸孔で、しばしば鳥のほか、ねずみ、へびなどの死体が発見される。 | C | 国立・保持 |
| 35 | 静ノ窟 | 大田市 | 海食洞 | 静の窟とも称される安山岩質火砕岩に発達した海食洞で伝説にとむ。現世に形成されたものらしく、海面すれすれの高さにある。 | C | |
| 36 | 高山 | 大田市 | 鐘状火山 | 499mの高山を中心とするもので大江高山火山群の山峰の一つ。石英安山岩からなる。洪積世初期の火山。 | B | |
| 37 | 大江高山 | 大田市 | 鐘状火山 | 808mの大江高山を中心とするもので、かなり開析されてはいるが鐘状火山としての地形を残す。石英安山岩からなる洪積世初頭の火山。大江高山火山群の中心的火山。 | B | |

| | | | | | | |
|----|----------|-----------------------------|--------------|---|---|------------------|
| 38 | 矢滝城山 | 大田市 | 鐘状火山 | 矢滝城山を中心とする大江高山火山群の一つ。かなり開析されている。 | C | |
| 39 | 三子山 | 大田市 | 鐘状火山 | 三子山といわれ、三つの山峰に分かれている。地形的には、やや開析されている。大江高山火山群の一つ。 | C | |
| 40 | | 大田市温泉 津町荻村 | 鐘状火山 | 603mの山峰を中心とする大江高山火山群の一つ。 | C | |
| 41 | | 大田市温泉 津町西田 | 鐘状火山 | 約500mの山峰を中心とする大江高山火山群の一つ。 | C | |
| 42 | | 大田市温泉 津町西田 | 鐘状火山 | 546mの山峰を中心とする大江高山火山群の一つ。 | C | |
| 43 | 櫛島及び周辺地域 | 大田市温泉 津町 | 波食台地 | 火山碎屑岩類から波食台が美しく発達し、教材としてもその価値は高い。単なる波食台なのか、多少の隆起海岸としての性格をもつものか検討を要するが、後者の可能性も残される。 | B | |
| 44 | 琴ヶ浜 | 大田市仁摩町 | 鉦物鳴砂 | 90%以上の石英砂からなる現世の砂質海岸で、砂浜を歩くか砂に衝撃を与えることによって独特な振動音を発生し、古来「琴ヶ浜」と呼ばれて来た。海流、波浪の特殊な作用によって砂粒の形状などがそのような音を発生する原因をつくったらしい。 | A | |
| 45 | | 邑南町、浜田市（天狗石山、三ツ石山、阿佐山丸瀬山一帯） | 準平原遺物 | 県境から島根県側に突出する標高約900m以上の平坦面で中生代酸性火山碎屑岩からなる。中国地方高位平坦面の遺物。 | C | 国定・特 (丸瀬山を除く) |
| 46 | 半田浜 | 江津市 | 砂丘 | 半田浜と呼ばれ、やや海岸から内陸部に入ったところに位置する。鮮新～洪積統の都野津層をおおって堆積したものである。 | C | |
| 47 | | 江津市波子町及び浜田市久代町 | 砂丘 | 都野津層をおおって堆積した砂丘であって比較的珪酸分にとむ。近年珪砂材料として乱掘されている。 | C | |
| 48 | 畳ヶ浦 | 浜田市 | 波食台地 化石産地 | 新第三紀中新統砂岩からなる隆起波食台地が海面上約1mに広く発達する。明治5年の浜田沖地震で隆起したものとみられる。砂岩中には著しく含化石団塊 | A | 県立・特 天 |

| | | | | | | |
|----|-------------|--------------|--------------|---|---|------|
| | | | | (ノジュール)が発達しTurritella fo rtilirata kadonsawaeusis OTUKAなど 少なくとも23種以上の海棲化石を産す る。 | | |
| 49 | 浜田海岸 | 浜田市 | 海食地形 | 全体として美しいリアス式海岸を形成し、瀬戸ヶ島の水道や外ノ浦湾などは明らかに溺れ谷としての地形をよく残している。また海食崖が多数見られ、特に万年が鼻は少なくとも50mに達する海食崖である。波食台、海食洞もよく発達するなど全体に海食地形としての材料は多い。第三紀火山岩にみられる岩石の色との調和が特に美しい。ここでも明治5年の浜田地震の地形への影響は無視出来ない。 | B | 県立・特 |
| 50 | | 浜田市長浜町（大崎一帯） | 海食地形 | 海食崖、波食台などが第三紀火山岩類に形成されている。 | C | |
| 51 | | 浜田市（塚ヶ原山一帯） | 溶岩台地 鉱物露頭 | 霞石玄武岩の溶岩台地で標高約100mの平坦面。新第三紀末頃の噴火によって形成され開析がかなり進んでいる。霞石が造岩鉱物として含まれるほか、時に岩漿水を含むことによっても珍しい岩体である。 | B | |
| 52 | 大佐山 鷹ノ巣山 | 浜田市金城町 | 準平原遺物 | 県境にまたがる大佐山、鷹ノ巣山は中心に展開する準平原遺物で標高約800m以上の平坦面である。中生代酸性火山砕屑岩からなる。中国地方高位平坦面の一部。 | B | 国定・特 |
| 53 | 弥畝山 | 浜田市金城町 | 準平原遺物 | 弥畝山々塊の平坦面で標高900m以上の酸性火山砕屑岩からなる中国地方高位平坦面の一部。 | C | |
| 54 | 雲月山 | 浜田市金城町 | 準平原遺物 | 雲月山を中心とする標高約800m以上の中国地方高位平坦面に相当する準平原遺物で閃緑岩などからなる。 | C | 国定・特 |
| 55 | | 浜田市三隅町井野 | 岩石・鉱物 | かんらん岩捕かく岩を多量に含む玄武岩である。かんらん岩はマントル物質と思われ、玄武岩の成因を考えるうえで学術上の価値が高い。 | A | |
| 56 | 奥匹見峡 | 益田市匹見 | 峡谷 | 奥匹見峡と呼ばれ、NW-SE方向の断層に | B | 国定・特 |

| | | | | | | |
|----|--------------|-----------------------|-------|--|-----|-------|
| | | 町道川 | | 沿って高位平坦面に食いこむ断層谷の一種で、谷壁の露岩は中生代酸性火山砕屑岩である。 | | |
| 57 | 表匹見峡 | 益田市匹見町道川 | 峡谷 | 表匹見峡と呼ばれNW-SEとNE-SWの両方向の断層線に沿いながら流路を変換して蛇行をくりかえし、小規模な淵、谷壁の露岩（中生代酸性火山砕屑岩）など、流路に沿う植生の調和が特に美しい。 | B | 国定・特保 |
| 58 | 裏匹見峡 | 益田市匹見町匹見 | 峡谷 | 裏匹見峡と呼ばれ、NE-SWの断層に沿って蛇行をくりかえし、流路に沿って小規模な淵や奇岩（中生代酸性火山砕屑岩…溶結凝灰岩が多い）が見られ植生との美しい調和をえがく。 | B | 国定・特保 |
| 59 | | 益田市匹見町（恐羅漢山～奥匹見峡～山綾部） | 準平原遺物 | 県境にまたがる中国地方高位平坦面の遺物であって標高約1000m以上附近に見られる平坦面。 | B | 国定・特 |
| 60 | 岩倉山 | 益田市匹見町 | 準平原遺物 | 岩倉山を中心に標高1000m附近に残存する中国地方高位平坦面の一部。 | C | |
| 61 | 恐羅漢山 | 益田市匹見町 | 準平原遺物 | 県境恐羅漢山を中心として広く発達する中国地方高位平坦面の遺物である。標高約1000m以上に発達する。 | B～A | 国定・特 |
| 62 | 五里山 | 益田市匹見町 | 準平原遺物 | いわゆる県境五里山附近から東方に細長く延長する標高1000m附近の平坦面で中国地方高位平坦面に相当する。 | C | 国定・特 |
| 63 | 広見山 | 益田市匹見町 | 準平原遺物 | 広見山附近に発達する標高1000m以上に見られる平坦面であって中国地方高位平坦面に相当するもの。 | C | 国定・特 |
| 64 | 三坂山、大神ヶ岳、赤谷山 | 益田市匹見町 | 準平原遺物 | 三坂山、赤谷山附近に残る中国地方高位平坦面の一部で標高約1000m以上。 | C | 国定・特 |
| 65 | 春日山 | 益田市匹見町 | 準平原遺物 | 春日山を中心に残存する中国地方高位平坦面の一部で標高900m以上。 | C | |
| 66 | | 益田市匹見町（額々山北部地域） | 準平原遺物 | 1100m附近に発達する平坦面で広島県側冠山山塊の平坦面に連続する。中国地方高位平坦面に対比される。 | C | 国定・特 |
| 67 | 蟻竜湖 | 益田市高津町飯田町 | 堰止湖 | 三郡変成岩類に形成された谷の出口が砂丘砂によってせきとめられて形成された湖で蟻竜湖と呼ばれている。縄文 | B | 県立・特 |

| | | | | | | |
|----|-----|--------------------|------|--|---|--|
| | | | | 海進時代には海水の浸入があったことが珪藻によって確認される。周囲の山地の頂上には都野津層からなる平坦面が発達する。 | | |
| 68 | | 益田市高津町 | 砂丘 | 都野津層からなる丘陵をおおう砂丘で学校用地化されている。 | C | |
| 69 | | 益田市緑ヶ丘 | 砂丘 | 都野津層からなる丘陵をおおう砂丘で砂の採掘が進んでいる。 | C | |
| 70 | | 益田市若山 | 砂丘 | 都野津層からなる丘陵をおおう砂丘。 | C | |
| 71 | | 益田市（高津川河口～益田川河口海岸） | 砂丘 | 都野津層からなる丘陵をおおう砂丘。 | C | |
| 72 | 高島 | 益田市 | 海食地形 | 高島と呼ばれ全島は安山岩から構成され、島の周囲は大規模な海食崖によって囲まれている。そして多数の海食洞が発達し美しい景観を誇る。 | B | |
| 73 | | 益田市（鎌手海岸） | 海食地形 | 安山岩からなる岩石海岸で、海食崖や海岸段丘、海食洞が発達する。 | C | |
| 74 | | 浜田市三隅町（青浦海岸） | 海食地形 | 斑れい岩、閃緑岩、花崗岩からなる複合岩体の岩石海岸で特に海食崖の発達が美しく釣場としても知られている。 | C | |
| 75 | 大島 | 浜田市三隅町 | 海食地形 | 海食崖など海食地形の発達が美しい。 | C | |
| 76 | | 浜田市三隅町（古湊海岸） | 海食地形 | 粘板岩特有の海食地形、特に片理に沿う浸食地形が美しい。 | C | |
| 77 | | 浜田市三隅町（折居海岸） | 海食地形 | 粘板岩からなる海食崖や一部海食洞の発達が美しい。 | C | |
| 78 | | 浜田市三隅町（須津西部海岸） | 岩石露頭 | 斑れい岩、閃緑岩、石英閃緑岩、花崗閃緑岩、花崗岩、アプライトと岩石学上の深成岩に含まれるものが一つの岩体中に分化しており、さらに酸性岩による塩基性岩の捕獲現象が著しく発達し、この意味における学術上の資料として極めて重要なフィールドといえる。 | B | |
| 79 | 大魚溪 | 津和野町 | 溪流、淵 | 中生代火山砕屑岩がNW-SE方向の流路からNE-SW方向の流路に急変する位置 | B | |

| | | | | | | |
|----|------|---------------|-------|---|---|---------|
| | | | | に淵が形成され周囲の露岩、紅葉、新緑と調和して美しい景観を呈する。流路の変換は断層に支配される。 | | |
| 80 | 地倉山 | 津和野町 | 鐘状火山 | 中生代火山砕屑岩上に噴出した第四紀火山で青野山火山群の一つ。 | B | 県立・特 |
| 81 | 鍋山 | 津和野町 | 鐘状火山 | 中生代火山砕屑岩上に噴出した第四紀火山で青野山火山群の一つ。 | B | |
| 82 | 青野山 | 津和野町 | 鐘状火山 | 青野山と呼び、標高907mの典型的な鐘状火山で、中生代火山砕屑岩上に噴出した角閃石安山岩からなる火山である。青野山火山群の代表的なものである。 | A | 県立・特 |
| 83 | 野坂山 | 津和野町 | 鐘状火山 | 県境にまたがる青野山火山群の一つで角閃石安山岩からなる。 | B | |
| 84 | 盛太ヶ岳 | 吉賀町 | 鐘状火山 | 地形的にはやや浸食された鐘状火山で、青野山火山群に属するものである。 | C | |
| 85 | 安蔵寺山 | 益田市匹見町 | 準平原遺物 | 標高1,263.2mの安蔵寺山頂附近に展開する平坦な地形で中国地方高位平坦面に対比される。 | B | 国定・特 |
| 86 | | 吉賀町（福川川、椈谷溪谷） | 溪流 | 中生代火山砕屑岩と中生代閃門層群からなる地帯を流れる溪流で岩質による選択浸食の影響や断層など支配されて流れる美しい溪流である。 | C | |
| 87 | | 津和野町（青野山北麓） | 風穴 | 青野山溶岩の崖錐堆積物から流出する4℃の気流。 | C | 県立・特 |
| 88 | | 津和野町（青野山北麓） | 風穴 | 青野山溶岩の不規則な亀裂から流出する4℃の気流。 | C | 県立・特 |
| 89 | 油井ノ池 | 隠岐の島町 | 池沼 | 平成17年度に行った種の多様性調査（島根県）の結果、従来考えられていた「火口説」を肯定する要素は認められず、大規模な地滑り跡地の可能性があることがわかった。油井ノ池は、円形で直径約250mの池沼である。 | B | 国立・特 |
| 90 | 国賀海岸 | 西ノ島町 | 断崖 | 国賀海岸と呼ばれ、場所によっては高さ100m以上の断崖が連続し、多くの海食洞が発達する。主として玄武岩溶岩からなり、全体としての海食地形の景観は第一級のものであろう。 | A | 国立・特保名天 |
| 91 | 知夫赤壁 | 知夫村 | 断崖 | 知夫赤壁と呼ばれ、全体としては、主として玄武岩溶岩からなるが、中には赤色化した玄武岩溶岩がはさまれ、こ | B | 国立・特保名天 |

| | | | | | | |
|----|--|--------------|----|------------------------------|---|-------|
| | | | | の名がある。場所によっては高さ100m以上の断崖がある。 | | |
| 92 | | 西ノ島町（三度北西海岸） | 断崖 | 玄武岩の断崖で高さ100m以上の断崖が続く。 | C | 国立・特保 |
| 93 | | 西ノ島町（三度南西海岸） | 断崖 | 玄武岩の断崖で高さ100m以上の断崖が連続する。 | C | 国立・特 |

※名称、所在地及び指定状況については、島根県により追加記載している。

[凡例]

(評価)

- ・ A 全国レベルで貴重なもの
- ・ B 地方レベル //
- ・ C 県レベル //

(指定状況)

- ・ 国立 国立公園
- ・ 国定 国定公園
- ・ 県立 県立自然公園
- ・ 天 天然記念物
- ・ 名 名勝
- ・ 名天 名勝及び天然記念物
- ・ 特保 特別保護地区
- ・ 特 特別地区
- ・ 特天 特別天然記念物